

平成20年 2月 定例会

◆(淵上陽一君) 続きまして、治安対策と交通安全対策についてお尋ねをいたします。

まずは、治安対策についてお伺いいたします。

先月の県警発表によりますと、平成19年の県内の刑法犯総数は、15年ぶりに2万件を下回り、中でも、凶悪犯件数が前年に比べて40%減少し、その検挙率は103%に上ったとのことであり、治安確保に向けた県警の御尽力のたまものと厚く感謝申し上げます。

一方、昨年10月、県警が県下全域で実施された体感治安に関する意識調査の結果を拝見しますと、ここ数年間で熊本県の治安は悪くなったと答えた人が50.9%に上り、よくなったと答えた人の19.8%を大きく上回っております。

実は、山鹿市では、年明け早々に2件の路上強盗事件が発生しましたため、私のところにも、治安確保に関して、駐在所の増設希望を初めとするさまざまな要望が寄せられております。

駐在所に関しましては、現在山鹿市では、山鹿警察署の管轄下で、旧4町に1カ所ずつ、計4カ所の駐在所が置かれておりますが、いずれも受け持つ面積が広いため、山鹿市民に駐在所の数や警察官の人数が少ないと感じさせる背景になっているのではないかと考えます。

現実の犯罪発生件数は減少しているにもかかわらず、県民の体感治安が悪化しているという相反する結果を受けて、今般県警が策定された「安全・安心くまもと」実現計画に基づいて、具体的には今後治安対策をどう推進していかれるのか、警察本部長にお伺いいたします。

〔警察本部長横内泉君登壇〕

◎警察本部長(横内泉君) 議員御指摘のとおり、治安回復に向けたこれまでの取り組みにより、刑法犯や人身交通事故が減少し、数字の面では治安は着実に改善されてきていると考えておりますが、体感治安に関する意識調査の結果や県民の身近で発生する犯罪の現状を見ますと、いまだ県民が安全、安心を身近に感じているとは言いがたい状況にあります。

このような現状を踏まえ、昨年12月に策定いたしました「安全・安心くまもと」実現計画では、県民が期待する力強い警察活動を強化するため、基本目標として、犯罪及び交通死傷事故の抑止目標に加え、新たに、県民の生活を脅かす犯罪に対する検挙目標を掲げたところであり、パトカーや制服警察官による街頭でのパトロールや検挙活動など、警察にしかできない活動を強力に推進していきたいと考えております。

他方、近年の防犯ボランティアの増加など、みずからの手で町の安全、安心を確保しようとする機運の高まりを受け、自治体、学校、各種ボランティアなど、地域社会との連携を一層深め、通学路における子供の見守り活動や交通安全活動など、犯罪や事故を抑止するための地域に根差した活動を協働して推進していきたいと考えております。

こうした方向性のもと、実現計画では、犯罪抑止総合対策、交通死傷事故抑止対策、県民が解決、摘発を望む犯罪の徹底検挙、少年非行防止対策、暴力団等組織犯罪対策など8つの対策を柱に、警察独自で、あるいは警察と地域社会が連携、協働して行う27の施策を強力に推進することとしております。

今後、節目節目で、その進捗度や効果を検証し、第一線における警察官の配置など推進体制を含めた施策の見直しを行いながら、県警察の総力を挙げて、安全、安心な熊本県の実現を目指してまいります。

〔淵上陽一君登壇〕

◆（淵上陽一君）ありがとうございます。

県民の生命、財産を守ることは、行政が担う最重要の任務でありますので、御苦勞の多いことは存じますが、引き続き全力で取り組んでいただきますようお願いを申し上げます。

次に、交通安全対策についてお尋ねいたします。

先月末の発表によりますと、県内において昨年1年間に交通事故で亡くなられた方は103人と、この50年間で最も少なかったとのことであり、交通安全確保に対する県警の御努力に厚く感謝を申し上げます。

一方、死者の半数は高齢者であり、特に75歳以上の死者が7割、35人を占めていることから、高齢者を交通事故から守る対策が急がれます。

この対策として最も有効なものが信号機であり、交通安全を確保するための信号機設置は、いつの時代も県民の切実な願いであります。が、財政難の影響はここにも及んでおり、県警としても御苦勞されていることと拝察いたします。

さて、最近山鹿市内で起きている交通事故の特徴として、信号と信号の間にある路地からの出会い頭の事故が挙げられております。

この事故は、信号を通過した自動車が、速度落とせの標識があるにもかかわらず、次の信号を続けて通り抜けようとして、スピードを上げ過ぎることが原因と指摘されております。

こうした事故を防ぐために、手押し信号機の設置要望が出されておりますが、予算と優先順位の関係上、実現までにはかなりの時間がかかるということでございます。

そこで、信号機が設置されるまでの間、自動車の速度を落とさせるために、大型スーパーの駐車場などにある減速用のでこぼこを設ける、あるいは従来の標識より減速させる効果の高い路上ペイントを施すといった代替策は考えられないものか、県内でこれまでにそのような例があるかどうか、お伺いいたします。